

## 40周年記念 手拭解説

### 【精進】

力を尽して道に努め励むこと。一般には“しょうじん”と読む。佛教用語では佛道に励む事や精進料理ということばもある。

富丘会で名簿会報委員長をして不詳者の追跡調査をしていた折、同期で氏名が出てこないものが数名いた。あるとき、学友より、その中の一人の梅原はどうも書の大家になっているらしいと聞き、調査し上野で会った。以来、年賀状の交換の他、彼から毎年現代書道20人展の入場券が送られて来ている。こんな折に手拭の字を頼まれ、はたと弱った。そこで思い出したのが梅原清山先生、同級生の誼みで手本を頼み、それを見て懸命に練習したが、もともと素養のない身、似ても似つかぬ字となってしまった。いかにも書道をやっていますと言った字にならなかつただけが幸いと云うべきか。

### 【三笑】

篆刻(てんこく)で朱文というらしい。昔、支那に惠隠法師と云う人が廬山(ろざん)に隠棲していて虎溪を渡らぬと誓っていた。そこへ陶淵明、陸脩静の心許す友が尋ねて来、帰りを見送っているうちに話がはずみ、思わず虎溪を渡ってしまい虎のうそぶく声で気づき、三人で大笑したという故事。虎溪三笑とも云う。良き剣友を持つことを切望する。

### 【守破離】

篆刻では白文。漢和辞典には載っていないから、日本で誰かが使い出したもの。出展は今の時点では不明なので、わかり次第ホームページに掲載するが、剣道人なら誰でも知っている言葉。物事の習いはじめは師の教えを忠実に実行する。ある段階まで来たら工夫を加える。更に進んだら師の教えから離れるという事だが、剣の道では技、心ともにここに到達したのは山岡鐵舟ぐらゐと私は思っている。わが身を振り返ってみると、守が終わるかどうかのところでやっとならぬ巡り合えた師に先立たれてしまった。

最後に刻印して下さった源遙子さんは古い友人、学祭にはよく来てくれるので、若手の剣友の中で顔見知りの人が多いかと思う。

氏名印は私の戦友で台湾兵だった楊復成先生から頂いたもの。先生は嘉義農林、現在の嘉義大学出身の農学博士。現在は北京在住。戦後中国に止めおかれた日本人医師、看護婦が烈士の基地に20余名埋葬されていることを知り、さぞ祖国の桜を見たかったろうと桜千本余を植えた男。

手拭は多くの人の友情に支えられ出来上がったもので感謝、感謝！！

平成19年六月二五日  
天野 八郎